

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-活用版(第2016年版、名古屋建築環境性能評価システム2016) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ブラザー工業株式会社 星崎第13工場	階数	地上3F
建設地	名古屋市南区浜田町五丁目1番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	86 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,700 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2020年7月4日
敷地面積	32,987 m ²	作成者	
建築面積	4,471 m ²	確認日	2020年7月22日
延床面積	12,354 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.5 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★ B:★★★ C 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 30% ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)	Q のスコア = 2.9		
Q 環境品質	Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
	Q1のスコア= 3.5	Q2のスコア= 3.8	Q3のスコア= 1.8
LR 環境負荷低減性	LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
	LR1のスコア= 5.0	LR2のスコア= 3.2	LR3のスコア= 2.6

3 設計上の配慮事項	LR のスコア = 3.7		
総合	Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
環境配慮設計としては、大きく、省エネルギーと災害時の建屋の信頼性に配慮した計画としている。省エネルギーとしては、高効率設備機器の採用、太陽光発電、中央監視&BEMSによるエネルギー計量を計画した。また、建屋の信頼性としては、免震構造、十分な荷重条件の設定、電源供給の二重化、熱源機器のバックアップなどが挙げられる。	室内環境の温湿度条件については、年間を通じて一定の温湿度を担保できる設備容量を確保した。また、建材としたはF☆☆☆☆の採用。十分な換気量の確保を行っている。	サービス性能としては、十分な階高の確保。事務所の十分な天井高さの確保と窓設置による眺望の確保。免震構造を基軸とした、十分な耐震性の確保。	室外環境の配慮としては、西側設備ダクトに対するメカバル目隠しによる意匠性の配慮、排熱の設備機器を屋上に設置、建物使用者の設計段階からの参画等がある。
	LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
エネルギー性能としては、高効率機器の採用、太陽光発電による創エネ、中央監視&BEMSによる工場全体のエネルギー消費量のモニタリング、室内環境性能の計量・計測による状態監視等が挙げられる。	資源、マテリアルについては、節水型衛生器具の採用、リサイクル材の使用、有害物質の無い建材の利用等がある。	敷地外環境としては、十分な駐車スペースの確保、駐輪場の設置、敷地周囲に対する光害の防止等の対応を行っている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

ブラザー工業株式会社 星崎第13工場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.5
LR1	エネルギー	5.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	0.0	0	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.075	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.012	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.06	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.028125	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.5



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。